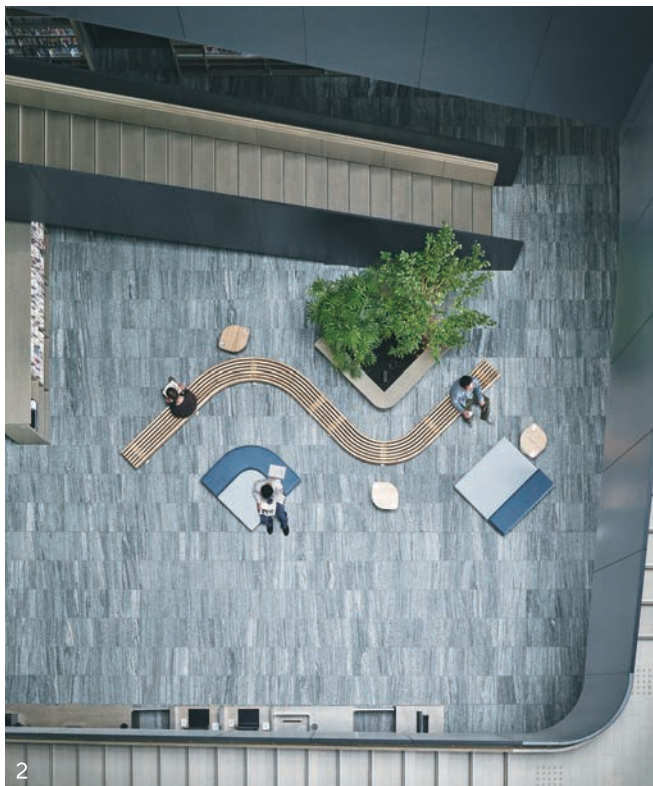


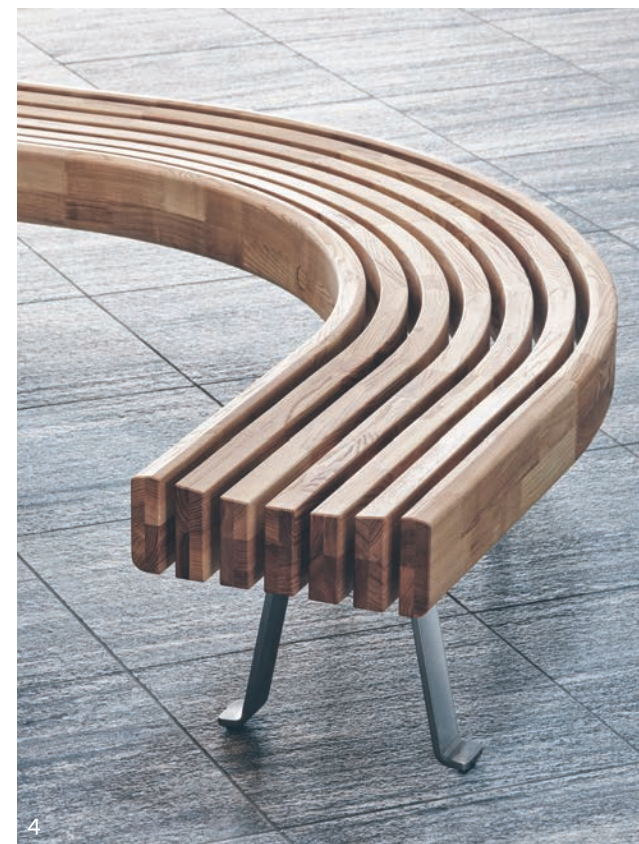
ふるかわベンチ

外部から連続的に繋がる1階ギャラリーウォーク。中庭のようなこの空間には、部材構成やボリューム感から、屋外家具のような佇まいとしました。二つの大きなプランターを取り巻くように湾曲したベンチは、人々の流れをギャラリーウォーク上階へと促します。



例えば写真②のように、ふるかわベンチは、ふるかわソファベンチとともに使い方の変化に応じたレイアウト変更ができます。中央を広く使いたい場合は、写真③のように重ねて置くことも可能です。

北海道産のタモ材の端材を繋ぎ合わせた座板は、上面を緩やかに削りこむことで、座り安さや触りごちを良くしています。



ふるかわソファベンチ

ベンチと同じ要素をベースにしながら、高さや奥行き、異なるクッションを配置したソファベンチです。短時間の腰掛けから、ゆったりと座るシーンまで幅広くサポートします。また、複数の組み替えによって、スペースに応じた居場所のアレンジが可能です。



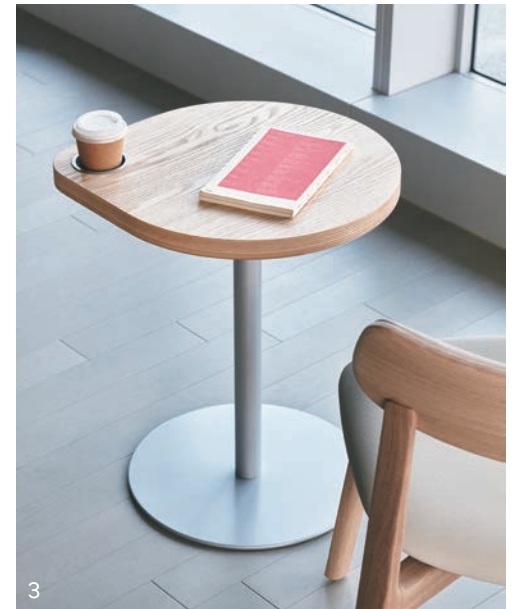
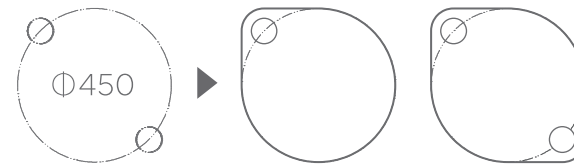
写真①は2階の小ホール付近。写真②は3階閲覧スペース。写真③は1階ギャラリーウォーク。ふるかわソファベンチは、いずれもギャラリーウォークの吹抜け周りに配置しており、各階ごとの空間に合わせて、カラーや配置を変えています。



このは / しずくサイドテーブル



カップホルダー付のサイドテーブルは、最小限の天板を有効活用できるようφ450の円形テーブルからカップホルダー部分を外に摘み出すような操作でデザインしています。



3



カップ2つタイプは、ふるかわベンチに合わせることで、川に浮かぶ木の葉のようにも見えます。
ラウンジチェアと合わせるカップ1つタイプは雫(しずく)型です。

2

KADOMADO チェア / アームチェア

「KADOMADO」のためのオリジナルチェア。木の角棒を90°に曲げたようなディテールは、ギャラリーウォーク階段のうねりに由来しています。シンプルで軽快な佇まいながらも、クッション性のある座面と背もたれによって快適な読書や学習をサポートします。様々な体格の利用者が使いやすいよう、座面の奥行きは少し浅めに設計しています。



シンプルな佇まいは、椅子が多く並んだ際にスッキリとした風景をつくれます。

椅子を引きやすいよう、背もたれフレームの裏には掘り込み加工を施しています。

チェアとアームチェアは、1階から4階までの各所に配置しており、エリアやフロアごとに木部と張地のカラーを変化させています。



チェアは4脚までスタッキングが可能です。

みずのわベンチ



4階の防火扉の間にあるスペースには、同心円形状でふっくらとボリュームのあるクッションベンチを3台設し、ベンチに合わせてカーペットの色を変えることで、空間と家具が一体となりながら居場所を作っています。

しっかりと重みのある木の板をベースとし、さらに厚みのあるクッションにすることで、側面にもたれかかることもできます。



座面の高さは、一般的なベンチよりも低くし、子どもから大人まで、座りやすい設計としています。



かどまっぷテーブル

「門真市」のかたちをモチーフとした、かどまっぷテーブルは4階の図書エリアのランドマークとなります。また、不定形のかたちは座る場所によって向き合って座ったり、距離をとって座ったり、多様な使い方ができます。



かどまっぷテーブルは、門真市を流れる「古川」のラインで2つに分割ができ、使い方次第でレイアウトを変えられます。写真②のように、古川ラインの側面には水色のリノリウム材をを埋め込み、「川らしさ」を表現しながら、テーブルを合わせる面を分かりやすくしています。

